UIFAニュース

発行　宇治市国際親善協会
事務局　〒611－8501　宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書広報課内
電　話　0774－22－3141（内線2058）　FAX　20－8776
ホームページ http://uifa.news.coocan.jp

第 71 号
平成26年（2014年）11月

カムループス市へ公式訪問

平成26年度宇治市カムループス市公式訪問団（市民訪問団12人、行政訪問団５人、団長・山本正宇治市長）は、友好都市盟約締結24年目を迎えたカナダカムループス市との友好を深めるため、6月30日から７月４日まで同市を訪問しました。

カナダデイの式典などの公式行事への出席や、日系人会館、トンプソン・リバーズ大学などを訪問しました。交流会やホームビジットなどを通じて、24年にわたる交流の歴史を振り返りながら交流を深めました。

当協会から派遣した市民訪問団員は、カムループス市を離れてから７月８日までの日程で、バンフ等を訪問しました。市民訪問団員として参加されましたお二人からお寄せいただきました訪問記をご紹介します。

カムループスレポート

市民訪問団員　應　請　矩　男

＜完璧なスケジュールとガイド＞

このレポートを書くために頂いた市からの資料を見てびっくり。私たちの行動は５分刻みにスケジュールされたものでした。私たち市民訪問団員が、ストレスなく先方の方々と交流できたのは、この綿密な計画と、ツアーガイド（原出さん）の完璧な誘導のお蔭であることを帰国して、あらためて感じました。本来、この感謝の気持ちは文末で述べる内容ですが、あえて市民訪問団員を代表し最初にお礼申し上げたいと思います。

＜綺麗・清潔・安心・快適の町＞

カムループス市に到着して感じたことは、①山や丘が緑色でなく、半分ハゲ山！でも、市の中央に雪解け水を川幅（宇治川の３～５倍）いっぱいに満々と運ぶトンプソン川が流れ、丘の上まで家々が点在していました。「雨の日は月に何日くらい？」の質問に「０」と返事。乾燥しているので、気温は高いが汗が出ません（帰国し日本の蒸し暑い空気に囲まれた時はカナダに戻りたい！と感じました）。各家庭には前後に緑いっぱいの芝生があり、環境は快適そのものです。②電柱がなく、商業用の看板も少ない。電柱がないと街全体がスッキリしています。③ゴミが落ちていない、落書きがない。清潔感が安心感を生み出しています。④コンビニや自動販売機がない。人々に、時間を気にしてセコセコする様子がなく、心も広大な気がしました。

＜海外で聴いた日本の唱歌＞

７月１日はカナダの建国を祝う「カナダ day」です。このセレモニーに参加するのが我々公式訪問団の大きな目的でした。山本市長をはじめ要人のスピーチのあと、日系人協会の和太鼓グループ「雷電」の太鼓演奏につづき、現地の日系人のお子様たちによる日本童謡の合唱が披露されました。我々シニア層の者にとって、日本ではあまり聴けなくなった唱歌をカナダの地で聴くと、心なしかそれを歌う子たちの顔が、今の日本の子たちより日本人らしく見えるのが不思議でした。

＜友好都市と私たちの使命＞

心から歓迎の意思を表そうとするカムープス市の議員さんたち。遠くからの親戚を出迎えるような日系人協会の皆さん。友好都市の形を作るのは行政の仕事なのでしょうが、その友好の中身を作るのは我々市民でないとできません。友好は形式ではなく、遠い国の市民の間に生まれる親戚意識が生み出す関係であり、これが本当の世界平和につながるのだと思います。

東日本大震災の際、台湾の市民から200億円以上の義援金が寄せられたと聞きます。台湾の人達が、なぜ親日的なのかを取材するＴＶ番組で、「なぜ日本が好きなのですか？」の質問に、若者はおじいちゃんやおばあちゃんから（植民地時代の）日本人はいい人達ばかりだと聞いているから…と答えていました。信頼できる肉親からの言葉はストレートに若者の心に入るのでしょう。

今回参加した市民訪問団の我々が孫や、ご近所、友人達にカムループス市で感じた友好の証を伝え続けることが、私たちの使命だと感じるようになりました。

公式市民訪問団に参加して

市民訪問団員　山　添　寛　子

市民訪問団の一人としてカムループス市訪問の機会を得た私は、60歳にしてまた新たな多くの学びと発見をすることができた。

カムループス市訪問で特に印象的だったことが二つある。一つは「おもてなし」の在り方である。奇を衒（てら）うことなくあくまでも自然体。自分たちの国や文化に誇りをもち妥協しない。食事もプレゼント交換も全てカナダ流。しかしそこには、私たち訪問団を市をあげて歓迎する、あたたかな「おもてなし」の心が満ちあふれていた。言語や文化の壁を越え、人と人とが対等にコミュニケーションを図る。あまりにも当然である雰囲気に圧倒された。そのとき、その場にいる自分が、一人の人間として尊敬されていることを感じた。とてもうれしいことだった。

もう一つは、カムループス市のカナダデイ公式式典に参加することができたことである。学校のグラウンドのような広場に、大学祭の模擬店のようにテントが軒を連ね、さまざまなものを販売し客を集めていた。

人々は好き好きに円座し、飲食・歓談し、カナダデイを楽しんでいた。臨時に設営されたステージでは、ミロバー市長をはじめ10人ほどの主催者たちが次々とスピーチをし、式典を盛り上げていた。しかしこのような企画自体は、日本の発想と基本的に変わらないと思った。絶対的に異なるのは、そこに集まった人々である。

「世界がもし百人の村だったら」の本を思い出した。白人、有色人種、老若男女、障害者、移民。

さまざまな人々がみごとに融和し、一つのコミュニティを形成している。お互いの存在を認め、尊敬しあっている。すばらしいことだと思った。

カムループス市主催の公式晩餐会、日系カナダ人協会主催の夕食会、市民宅での食事会など公式訪問団ならではの人々との交流があった。そのどの場面でも、自分が一人の人間として尊敬されていると感じた。カナダデイでのコミュニティの在り方と同質のものだと思った。

強行軍ともいえる公式訪問を無事に終え、私たちはバンフに移動し、大自然の観光を思う存分楽しんだ。

公式訪問は友好都市との親善交流を目的としているが、その成功のために重要なことは、訪問団自体の交流、すなわちチームワークだと思う。今回、山本市長をリーダーに団結力のあるチームになっていたと思う。参加者一人一人がお互いを思いやり、強い責任感をもって行動した。カムループス市のあたたかい「おもてなし」に一丸となって対応した。参加者の大半が70歳代というのも驚くことだったが、どの人も若さと意欲にあふれ、社交性に満ち、それぞれの個性や役割を遺憾無く発揮していた。私たちはまるで旧知の間柄のように息を合わせ、公式訪問の重要な場面で、宇治市民として良い印象を与えることができたと思う。

公式訪問団は解散したが、私たちの心のつながりは、必ず一生の宝物になるものだと思う。また同時に、このような市民のつながりは、宇治市の財産にもなるものだと思う。市民の草の根の力は、友好都市との関係を、今後一層発展させていくために大きな役割を担うはずである。

宇治市民であることを誇りに思えた有意義な旅となった。

語学講座 開催

恒例となりました語学講座を、生涯学習センターで開催。10月8日(水)から11月26日（水）までの全８回講座で、初・中級英会話と初級韓国語会話の３講座を実施しました。それぞれの言語を母国語とする方々を講師としてお招きし、講師の出身国の文化などの紹介も交えた講座を、楽しく受講していただきました。

語学講座を通じて、外国語の習得だけではなく、視野を広く持った国際的な感覚を養うひとつのきっかけとなれることを目的として、毎年度開催しています。今回も、講師や参加者同士が交流を図りながら、和気あいあいと学習されました。

日本語支援ボランティア養成講座 開催

生涯学習センターで９月５日（金）から11月７日（金）までの10回講座で、「日本語支援ボランティア養成講座」を開催したところ、受付開始初日の午前中に定員（20名）をオーバーする申し込みがありました。受講生の皆さんには、在住外国人学習者さんへの日本語の学習支援のノウハウの初歩を学んでいただきました。

社会は年を追うごとにグローバル化していき、安心・安全、おもてなしの国である日本に住む外国の人々の数は更に多くなっていくと思われます。そのような方々の言語習得の手助けをして、日本人と同じレベルの日常生活を送ることができるようにすることを目的として、この講座を開設しました。

今回、あまりにも多くの受講希望、ボランティア活動の実践希望がありましたので、この講座は今後も継続をし、協会として内なる国際化支援の役割を果たしていきたいと考えています。

楽しかったカムループスでの思い出

西宇治中学校 3年　辻　悠基

カムループス空港に到着し、ホストファミリーと対面したとき、僕は心のどこかで「楽しいホームステイになりそうだな」と感じました。

ステイ先は日系のファミリーで、お母さんは日本人の方でした。そして、個人目標として「積極的に英語を使う」という目標を立てていただけにこのような環境でちゃんと英語を話せるか不安でしたが、車の中でお母さんが「できるだけ日本語を話さないようにするから」と言ってくれたので少しだけほっとしました。

ファミリーの家に荷物を置くと、すぐ車に乗ってスーパーマーケットへ向かいました。日本のスーパーとは違って生きているロブスターを売っていたり、2Lの牛乳があったりと、とても面白かったです。夕食のあとには家族全員でウノをして子ども達と仲良くなることができました。

翌日はウォーターラフティングを楽しんだ後、Chase Memorial Parkという場所で他の団員やそのホストファミリーといっしょにサンドイッチを食べたり、近くの湖で泳いだり、サッカーや鬼ごっこをして楽しい時間を過ごしました。

家に帰って少し休憩したあとは先生や団長、添乗員さんもそろって裏庭でバーベキュー。お母さん特製のタレでこんがりと焼いたお肉はとてもおいしかったです。

3日目はカムループス市役所で市長に挨拶をさせてもらうという貴重な経験から始まりました。とても緊張してしまい、ちゃんと言うことができるのか心配でしたが、かまずに挨拶できたのでよかったです。その後、バスでボウリング場に向かい、ボウリングをした後は日系人会館で昼食をいただきました。メニューにおにぎりがあったので、とてもうれしかったです。昼食後には会館の方やホストファミリーにカナダを訪れて感じたことを英語でスピーチしましたが、市役所での挨拶ほど緊張せずに話せたのでほっとしました。

午後からは牧場で乗馬に挑戦したり、ストラップを作ったあと、ホストファミリー全員でAlbert McGowan Parkというところに集合し、バーベキューや水遊び、ソフトボールなどをして楽しみました。

そしてあっというまにお別れの時間になってしまいました。カムループス空港に着き、チェックインが終わったときに7歳のお兄ちゃんが泣いているのを見て僕も泣いてしまいそうになりました。最後にホストファミリーにお礼の言葉をいってセキュリティーのゲートを通るときに振り返るとファミリー全員が手を振ってくれていて「このファミリーの家庭にホームステイできて本当によかった。」と思いました。

今回の訪問で僕はたくさんの人と出会いました。その一人ひとりとのコミュニケーションを通してカナダの人の親切さやフレンドリーさ、そして心の優しさを実感することができました。

この経験をこれからの自分の人生に活かし、将来は国際的に活躍できるようになりたいです。

最後に、このような素晴らしい機会を与えていただいたことに感謝したいと思います。ありがとうございました。

雑観雑感

2012年3月に姉妹都市のカムループスから和太鼓グループ「雷電」が宇治市を訪問、その折に親善協会と宇治国際交流クラブの世話で、地域の和太鼓グループ「楽鼓」と「渦」とのコラボのコンサートを実施いたしました。その時のご縁で、カムループス日系カナダ人協会（KJCA）が設立した日本文化センター設立20周年記念、及び雷電太鼓の活動10周年の記念公演に来ないかとお誘いを受けました。あいにくまだ若いママグループの「楽鼓」さんたちの都合がつかず、結局「渦」のメンバー有志9名が参加、賛助出演をして「雷電10」の会場を盛り上げ、その訪問の間の世話役として、宇治国際交流クラブの会員3名が同行いたしました。

宇治市の公式訪問団がカムループスを訪れるときには、必ず宇治市民はKJCAの日本文化センターで歓迎を受け、彼らの心温まるおもてなしの料理をいただきます。彼らは、カナダへ移住した当時のレシピを大切に保存、伝統の味を守り、私たちに食事を提供してくれます。20周年記念パーティの席で、長老のロイ井上さんのスピーチを聞いて、当時のセンター完成までの日系人の方々の一丸となった努力を聞いて、なんと自立した誇り高い市民なのかと深く感動、尊敬の念に打たれました。ご自分達のルーツの伝統文化を残そうという彼らの願望を、私たち宇治市民は、遠く日本から、また直接現地に赴いて、今後支援をしていきたいと感じた訪問となりました。20周年記念パーティでは、宇治市国際親善協会、宇治国際交流クラブからのお祝いを手渡してきました。(K.I)